

Special Essay

「考える人」

放射線医学講座 安陪 等思

カリフォルニア州にあるスタンフォード大学の広大な構内にはロダンの彫刻が点在している。1995年に留学した際に「考える人」が Meyer 図書館の前に設置されているのを見た。世界で最も有名な彫刻だと言ってもよい「The Thinker」が図書館前広場に佇んでいる光景に唖然としたのを覚えている。米国の大学においては蔵書をどれだけ有しているのかがステータスのひとつとされていて、いかに図書館が立派であるかが大学にとって大切なことなのである。それにしても「Auguste Rodin」である。「The Thinker」である。彼に見られながら図書館の前を歩くだけで、勉強しなくては、考えなくてはとの気持ちになるのである。

図書館の中には bookstore がある。これはその名の通りに本屋の機能を持っているが、それ以上に文房具、コンピュータ、ソフトウェア、大学のロゴ入りのスポーツ用品からマグカップまで、デパートの売り場のようにだだっ広く配置され、多くの学生や教員たちで賑わっている。カリフォルニアの青い空と bookstore のざわめき、その奥の図書館の静寂の対比が ON/OFF を切り替えているようだった。医学図書館はそれとは別にもうけられていて、私はまだ電子メールも使ったことがないインターネットの走りの時代に学生は文献検索を行っていた。私の名前の `abe t` と入れると、ものすごくヒットするので、学生がびっくりしていたのを思い出す。`abe t kurume` とすると減っちゃうので大笑いとなった。

図書館には本を読むことに適した環境を提供する機能が基本的には求められるわけだが、それを最適化する仕掛けはあっても良いのかもしれない。本学においては自習室、スキルスラボ、コンピュータ実習室などが集約されても良いのかもしれない。日本は狭く、コンパクトに物事を収めるのには長けている。無駄な空間を余り喜ばないのかもしれないし、そんな余裕はないとおしかりを受けるかもしれない。しかし、どうしても笑顔と静寂、黙考とひらめきを導く、そんな雰囲気を持った空間を図書館に作ることは大切な気がしてならないのである。